

**【警告】

1. 本品は、下肢静脈瘤の診断及び治療について十分な知識と経験を持ち、本品に関する所要の講習を受けた医師が使用すること。
2. 治療部位以外へのレーザー照射は行わないこと。特に眼及び皮膚への直接又は間接的照射は避けること。本品は「JIS C 6802 レーザ装置の安全基準」においてクラス 4 に分類されているレーザー装置で、眼や皮膚に危険なレーザーであり、可燃物にレーザー光を照射すると火災の危険もある。
3. レーザー照射を開始する前にラディアル 2 リングファイバー、又はラディアルスリム 2 リング光ファイバー先端位置が深部静脈との接合部から 10~20mm 末梢側であることを確認すること。
「深部静脈血栓症の原因の一つとなりうるため。」
4. 術後、患者が下肢腫脹や疼痛など深部静脈血栓症が疑われるような症状を訴えた場合は、超音波検査等必要な措置を行うこと。
5. 本品を使用する部屋に入室する場合は、患者を含め全員が保護メガネを着用すること。

【禁忌・禁止】

<使用方法>

光ファイバーは再滅菌、再使用禁止。

[感染、先端劣化による破損、破損による異常なレーザー照射、治療効果の低下・治療血管穿孔などの危険がある。]
ただし、1 人の患者で両側下肢を同時に治療する際、対側に続けて使用することは可能。

<適用対象(患者)>

以下の患者には適用しないこと。

1. 急性期深部静脈血栓症および慢性深部静脈閉塞 (静脈閉塞により伏在静脈が主な静脈血行路になっている場合)
2. コントロールできない血液凝固異常 (内因性・医原性)
3. 妊娠もしくは授乳中の患者
4. 治療後の歩行が困難な患者

【形状・構造及び原理等】

1. 構成

本体、ラディアル 2 リングファイバー (以下 2 リング)、ラディアルスリム 2 リングファイバー (以下スリム)、フットスイッチ、インターロックプラグ、電源ケーブル



2. 電気的定格

電源電圧: AC100V、電源周波数: 50/60Hz、消費電力: 380VA

3. 機器の分類

レーザー製品のクラス: クラス 4

電撃に対する保護の形式: クラス I

電撃に対する保護の程度による装着部の分類: B 形装着部

4. 寸法及び重量

本体寸法: 265W×134D×184H (単位 mm)、本体重量: 5Kg

5. 動作原理

半導体レーザー素子は、高出力用ガリウム砒素からできており、発振波長は 1470nm である。治療対象となる伏在静脈内で 1470nm レーザを照射することにより血管壁を損傷・収縮させて血管を閉塞・血流を遮断することで、静脈逆流を止める。

【使用目的又は効果】

本品は、一次性下肢静脈瘤 (血管径 20mm 以下の大伏在静脈瘤又は小伏在静脈瘤) の伏在静脈本幹の治療に使用する。

【使用方法等】

手術手順 (参考)

(1) 準備

(1-1) 2 リング使用の場合 (推奨)

- ① ショートシース: 6F シース×有効長 11 cm イントロデューサキットを準備する。
- ② ロングシース: 6F シース×有効長 50 cm イントロデューサ、18G 穿刺針: 長さ 5 cm、ガイドワイヤー (0.035inch × 150 cm) を準備する。

(1-2) スリム使用の場合 (推奨)

- ① ショートシース: 4F シース×有効長 11 cm イントロデューサキットを準備する。
- ② 16G 穿刺針: 長さ 5 cm を準備する。

(1-3) 保護メガネ

保護メガネは CW、半導体レーザー、波長 1470nm±30 nm をカバーし、光学濃度が 4.0 以上のものであること。

(2) 手術手順 (ショートシース使用の場合)

- ① セルジンガー法によりシースを留置する。
- ② シースから光ファイバーを挿入し、超音波検査で光ファイバーの先端位置を確認する。
- ③ 超音波ガイド下で TLA 麻酔を施行する。
- ④ レーザ出力 (2 リングは 10W、スリムは 6.5W 推奨) を設定し、フットスイッチを踏んでレーザーを照射する。
- ⑤ 光ファイバーを手動的に牽引しながら、レーザーを照射する。2 リングは 60~80J/cm を目安とする。スリムは 70J/cm を超えないこと。
- ⑥ セーフティマーキング I が見えたら、一旦レーザー照射を止めシースを抜去する。シース抜去後レーザーの照射を再開し、セーフティマーキング II が見えたらレーザー照射を停止し、光ファイバーを皮膚外に引き抜く。

セーフティマーキング II セーフティマーキング I



【使用上の注意】

1. 使用注意 (次の患者には慎重に適用すること。)

- (1) 心、肺、肝、腎等の各臓器に起因して全身状態が悪い患者
- (2) 下肢蜂窩織炎を伴う感染がある患者
- (3) 血栓性素因を有する患者
- (4) 表在性血栓性静脈炎の既往のある患者
- (5) 動脈性血行障害を有する患者
- (6) 経口避妊薬あるいはホルモン剤を服用中の患者
- (7) ステロイド剤を服用中の患者
- (8) 止血薬を服用中の患者

2. 重要な基本的注意

- (1) スリム使用時の注意事項
スリム使用時、レーザー出力 6.5W 以上に設定するときは十分注意すること。(2 リング 10W を超える焼灼効果を与える可能性がある。)
- (2) 手技および臨床的な注意事項
① 治療の前後に光ファイバーの先端部分に破損が無い確認すること。治療後に先端部分の欠損がある場合は、血管内に欠損部分が残存している可能性がある。残存している場合には、必要な措置を講じること。
② ガイドワイヤーは下大静脈より中枢側までは挿入しないようにすること (不整脈を発症することがある)。
③ TLA 麻酔の針で光ファイバーにダメージを与えないこと。
④ シース内に光ファイバーがある状態でレーザー照射を行わないこと。熱によりシースが変形、破断して血管内に残存するおそれがある。また、焼灼が十分に行われない可能性がある。
⑤ レーザ照射を行う際は、Trendelenburg 体位等により焼灼予

定部位の血液を少なくすること。照射中は、超音波検査のプローブ等を皮膚へ当て血管と光ファイバーを密着させること。

- ⑥血管内の血液が多い場合、光ファイバー先端に炭化物・凝血塊が付着する可能性がある。対側に引き続き使用する場合、光ファイバー先端に炭化物・凝血塊を軸方向に濡れたガーゼ等でふき取る。上記方法で炭化物・凝血塊がふき取れない光ファイバーは使用しないこと。
 - ⑦治療中に血管内で光ファイバーの牽引を一時的に停止する場合は、必ずレーザー照射を停止する。
 - ⑧レーザーを照射しながら光ファイバーを牽引している途中で、光ファイバーが血管と付着し、牽引ができなくなる可能性がある。この場合は、レーザー出力を下げ、光ファイバーを前後に動かして付着を解消する。
 - ⑨皮膚から浅い部分の血管を治療する場合、熱傷のおそれがあるので皮膚から血管が充分に離れるように TLA 麻酔液を浸潤させること。
 - ⑩静脈に神経が近接している場合、神経への熱損傷により感覚異常が出るおそれがある。治療血管と神経を分離するように TLA 麻酔液を浸潤させること。
 - ⑪光ファイバーを血管から皮膚外へと引き抜く前に必ずレーザー照射を停止すること。皮膚熱傷の可能性がある。
 - ⑫Pulse Mode による治療の有効性と安全性は本邦で実施された臨床試験では確認されていない。
 - ⑬本品を用いて治療し再疎通した場合の再治療の安全性は確認されていない。
 - ⑭手術後に超音波検査を行うこと。検査時期及びその内容は「下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術のガイドライン 2019」¹⁾を参照のこと。
- (3) 装置の取扱いに関する注意事項
- ①本体の正面、後面、側面、上下面に麻酔液、生理食塩水、消毒液等、液体のかからないように注意すること。フットスイッチケーブルのコネクタ等の接続部を液体に浸けたりしないこと。装置が故障する。
 - ②光ファイバーを目視で確認し、折れ、欠けがあるものは使用しない。光ファイバーを手術台等に固定する場合は、鉗子のような金属製品は使用せずガーゼで縛る等、光ファイバーに傷を付けない方法で行うこと。
 - ③光ファイバーコネクタの先端部分はぶつけない、液体で濡らさない、指で触れないこと。光ファイバーが破損することがある。光ファイバーコネクタ部に異常がある場合は使用しない。破損した光ファイバーを装置に接続すると、装置が故障することがある。光ファイバーコネクタのカバーは装置に接続する直前まで外さないこと。
 - ④光ファイバーを直径 15cm 以下に無理に曲げたり、引っ張ったり、上から押さえ付けたりしない。破損する場合がある。
 - ⑤フットスイッチから足を離してもレーザー光の照射が停止しない場合、直ちに緊急停止のアイコンを押してレーザー光の照射を停止させること。
 - ⑥光ファイバーを接続していなくてもレーザー光が照射される場合、直ちに緊急停止アイコンを押してレーザー光の照射を停止させる。
 - ⑦保護メガネをしていても、以下の行為により目の損傷を引き起こすことがある。充分に注意すること。
 - －レーザー光を直視したり反射散乱光を見ると目を損傷する可能性がある。
 - －光ファイバーの接続部を覗き込むと目を損傷する可能性がある。
 - －ガイド光を直視すると一時的に視力が低下する場合がある。
 - ⑧不用意なレーザー照射から皮膚の障害を防ぐため、皮膚露出の少ない衣服を着用すること。
 - ⑨レーザーの誤照射を防ぐためにレーザー照射終了後はフットスイッチを足元から離れた位置へ移動すること。またレーザー照射をしないときは STANDBY モードにすること。
 - ⑩装置を使用しない時は、レーザーアウトレットにカバーを装着すること。
 - ⑪手術器具は、レーザー光の反射防止対策を施した製品の使用が望ましい。

3. 相互作用

併用禁忌

- ・電気メスとの併用。(電磁波の干渉により危険な状況を引き起こすおそれがある。)
- ・本品の構成品以外の光ファイバーは使用しないこと。

*4. 不具合・有害事象

(1) 重大な不具合・有害事象

(1-1) 重大な不具合

本品を使用した臨床試験で重大な不具合は発生しなかった。

(1-2) 重大な有害事象

①本品を使用した臨床試験での発現。

EHIT Class3 が 57 例中 1 例 (1.8%) 発現した。

②本品による有害事象

これまでに本品を使用している医師から、以下の報告がある。
蜂窩織炎、深部静脈血栓症、肺血栓塞栓症、肺梗塞、脳梗塞、光ファイバー体内残存、血腫

③本品と同様の使用目的を持つ販売名 ELVeS レーザーを使用している医師から、総腓骨神経障害による Drop foot (下垂足) の報告がある。(②に記載している有害事象を除く。)

(2) その他の不具合・有害事象

(2-1) その他の不具合

①本品を使用した臨床試験で不具合は発生しなかった。

②海外では以下の不具合が報告されている。

- ・光ファイバーが折れていた。
- ・光ファイバーを接続したが、装置が認識しない。

③本品を使用している医師からこれまでに報告された不具合は以下のとおりであるが、これに限るものではない。いずれも患者の健康被害は発生していない。

- －レーザー光が出ない
- －ガイド光の異常
- －電源の入/切ができない
- －フットスイッチ故障
- －構成電子部品の故障
- －光ファイバーを認識しない
- －本体から異音がある
- －照射中の警告音の異常
- －ガイド光が漏れる
- －ディスプレイ故障
- －意図せず Standby 状態になる
- －光ファイバーと本体の接続不良
- －光ファイバーの折れ/ねじれ/傷/断裂/欠け等の異常
- －光ファイバーコネクタ部の異常
- －スチームパブルを確認できない
- －レーザーアウトレット部の不良
- －その他

④本品と同様の使用目的を持つ販売名 ELVeS レーザーを使用している医師から、以下の報告がある。いずれも患者の健康被害は発生していない。本品においても同様の不具合が発生する可能性がある。

- －累積エネルギーの表示異常
- －フットスイッチコネクタの緩み
- －リセット操作をしていないのにパラメーターがリセットされる
- －光ファイバーがイントロデューサに入らない/入りにくい
- －施術中/後に発生した光ファイバーの折れ/ねじれ/傷/断裂/欠け/溶融等の異常
- －施術中、光ファイバーが引き抜きにくい
- －滅菌包装の破れ

*⑤不具合又は操作を促すために表示するメッセージは以下のとおり。

- －ファイバー未接続
- －ファイバー使用期限切れ
- －ファイバー使用可能残
- －ドアインターロックなし
- －フットスイッチ未接続
- －温度許容範囲超過
- －出力許容範囲超過
- －レーザー出力異常
- －フットスイッチ確認
- －電流許容範囲超過
- －システム状態???
- －緊急停止
- －使用中にパスワード画面が表示される

(2-2) その他の有害事象

取扱説明書を必ず参照すること。

- ①本品を使用した臨床試験で発現した関連を否定できない有害事象は、57 例中 11 例(11.9%)、16 件であった。(承認申請時)

5%以上	2%以下
つっぱり感	硬化、EHIT Class2、EHIT Class3、表在性血栓性静脈炎、瘤内血栓、その他

本品を使用した臨床試験では、疼痛発現率は安全性主要評価項目、出血斑発現率は安全性副次評価項目と設定しているため、臨床成績欄に記載した。

- ②本品を使用している医師からこれまでに報告されたその他の有害事象は以下のとおりであるが、これに限るものではない。
- 血小板減少性紫斑病 (ITP)
 - 折れた光ファイバーからのレーザー光で術者が手に熱感を覚えた。
- ③その他本品の使用により起こる可能性のある有害事象
- 皮膚の熱傷、下肢動静脈瘤、発赤、索状感、色素沈着、圧痛、術後炎症、神経障害、しびれ感、血圧上昇、発熱、創知欠、硬結、頭痛、ひょう疽、意識消失、紅色皮疹、フィブリゲン上昇、CRP 上昇、麻酔による有害事象 (中毒疹)、創出血、皮膚炎、リンパ漏、感染

5. 高齢者への適用

高齢者は腎機能、肝機能等の生理機能が低下していることが多く、全身状態に注意して適用すること。

6. 妊婦、産婦、授乳婦及び小児等への適用

妊娠もしくは授乳中の患者には適用しないこと。(禁忌・禁止欄参照。)

本品を使用した臨床試験では小児の使用経験が無い。

7. その他の注意

- (1)爆発及び火災の危険に関する注意事項
- ・本品の使用中に可燃性、爆発性の麻酔ガスを使用しない。
 - ・アルコール、ベンジン、又は揮発性・引火性の溶剤のあるところで使用しない。
 - ・可燃性のドレープ、手術着、ガーゼ及びその他の可燃性の物質あるいは反射性のある手術器具を、レーザー光の光路内に置かない。
- (2)感電の危険に関する注意事項
- ・湿気のあるところでの設置、及び使用はしない。
 - ・液体の入った容器などを装置の上または近くに置かない。
 - ・装置の外装を開けない。
 - ・濡れた手で装置に触れたり操作したりしない。
- (3)使用済の光ファイバーは、注射針等と同様医療廃棄物として安全、適切な方法で廃棄すること。

【臨床成績】

国内において下肢静脈瘤患者を対象に非盲検、二群並行比較試験を行った。本品治療群(I 群 57 例)、対象機器 (ELVES レーザー) 治療群 (E 群 56 例)、合計 113 例の臨床試験結果の概要は以下のとおり。解析症例数は I 群 57 例、E 群 56 例の合計 113 例。

- (1)術後 12 週の血流遮断率
- 両群共に 100%であった。
- (2)術後観察期間中の疼痛発現率
- I 群：0.0%、E 群：25.0%
- (3)術後観察期間中の疼痛の VAS スコア
- I 群：6.3、E 群：22.8
- (4)術後観察期間中の出血斑発現率
- I 群：7.0% (4/57 例)、E 群：57.1% (32/56 例)
- (5)関連を否定できない有害事象 (I 群)
- つっぱり感、硬化、EHIT Class2/3、瘤内血栓、その他
- 重篤な有害事象は「EHIT Class3」が 1 例発現した。
- (6)術後観察期間中の疼痛発現率
- I 群：0.0% (0/57 例)、E 群：25.0% (14/56 例)
- (7)術後観察期間中の出血斑発現率
- I 群：7.0% (4/57 例)、E 群：57.1% (32/56 例)

【保管方法及び有効期間等】

＜保管条件＞

〔本体〕

温度：- 10℃～40℃

湿度：80%未満（結露しないこと）

水のかからない場所、直射日光の当たらない場所、荷重の掛からない場所に保管すること。

〔光ファイバー〕

温度：10℃～30℃

直射日光を避ける。水に濡らさない。

＜有効期限＞

滅菌済製品は最終包装の外装に表示している。

＜耐用期間＞

指定の保守・点検並びに消耗品の交換を実施した場合の耐用年数：5 年（自主基準）

【保守・点検に係る事項】

1. 使用者による保守点検事項

(1)使用前点検

- ①本体、電源ケーブル、インターロックプラグ、フットスイッチの外観に使用上の支障となるような変形、汚れがないか確認する。
- ②電源ケーブル、フットスイッチのケーブルの被覆に傷、裂けがないか確認する。
- 装置に異常が見つかった場合、または、故障が発生した場合は、電源コードをコンセントから抜き、装置内部には触れずに(株)インテグラルまたは購入先まで連絡すること。

(2)定期点検

定期点検は年に 1 回以上実施すること。

項目	概要
装置の外観	異常が無いこと。
ケーブルの被覆	傷、裂けが無いこと。
フットスイッチ	作動に異常が無いこと。
ディスプレイ	表示に異常が無く、アイコンが機能すること。
ファイバーインターロック	正しく機能し、危険なレーザー照射が起きないこと。
インターロック	正しく機能し、危険なレーザー照射が起きないこと。
緊急停止作動	作動に異常が無いこと。

2. 業者による保守点検事項

(株)インテグラルは保守点検を受託することができる。

1 年に 1 回実施することを推奨する。

項目	概要
電源電圧	供給される電源電圧の測定。
レーザー出力の精度	最終出射端のレーザー出力を測定する。
レーザー出力の安定性	最終出射端のレーザー出力の安定性を測定する。
ガイド光の出力	最終出射端のガイド光のレーザー出力を測定する。
タイマーの精度	タイマーの精度を測定する。
照射回数/エネルギー	各設定出力における照射回数、表示エネルギーを確認する。
安全機能	各安全機能の作動を確認する。
その他	本体、ケーブル、フットスイッチの外観確認。アイコンの作動確認。

3. 清掃

本体や、付属品の外装に汚れがある場合は、アルコールや中性洗剤を柔らかい布につけて拭く。

【承認条件】

1. 下肢静脈瘤の病態に応じた適切な治療に対する十分な知識・経験を有する医師が、下肢静脈瘤に対する本品を用いた血管内焼灼術に関する講習の受講等により、本品の有効性及び安全性を十分に理解し、本品の操作・使用手順に関する十分な技能や手技に伴う合併症等に関する十分な知識・経験を得た上で、適応を遵守して用いるよう、必要な措置を講ずること。
2. 下肢静脈瘤の治療に関する十分な経験のある医師を有し、本品を用いた治療に伴う合併症への対応を含めた十分な体制が整った医療機関で、本品が使用されるよう、必要な措置を講ずること。

取扱説明書を必ず参照すること。

【主要文献および文献請求先】

＜主要文献＞

- 1) 下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術のガイドライン 2019 第1
版、日本静脈学会ガイドライン委員会 2019 年7月4日

＜文献請求先＞

東京都品川区上大崎 2-25-2 新目黒東急ビル
株式会社インテグラル
Tel 03-6417-0810 Fax 03-6417-0853
<http://www.varixlaser.jp/>

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売元	株式会社インテグラル
製造元	セラムオブテック ゲーエムベーハー CeramOptec GmbH
製造国名	ドイツ連邦共和国